

基夫先生、GOOD JOB!! ①

築山 広子

11月25日、ピアザ淡海大会議室でのセンター設立50周年記念礼拝。説教者は、主幹牧師の従兄の関学の学院長、中道基夫先生。説教題は「今、再び、『心が燃える』ために」と、まるで、現在低迷し、迷走しているこの私の為の内容ではないか! と、その開始を今か今かと待っていた。

実は、ここまで辿り着く途上で、私は、個人的に何の親交もない先生に失礼なる言動を発し、できればそのことはなかつたものとして記憶の彼方に葬り去りたいのであるが、現実はそうもいかず、時折記憶の底からでてくるあの事を思い出すたびに、「まさに『汗顏の至り』で、穴があれば

飛び込みたい状況を招いてしまった事件がこのタイミングでまたまた出てきてしまい、振り払いながら、椅子に腰かけていた。

それは、忘れもしない、今を去ること10月15日のバザールカフェでのこと。私たち「婆さんトリオ」は、施設に暮らす100歳を迎えた教会員のN塙さんにお会いすべく、まず腹ごしらえと、同行のI橋さんがボランティアをしているバザールカフェにてランチを食べていた。その時、同行のE澤さんが、「あのね、うちの孫、今年、関学に入ったのよ。」と言つたものだ

と言えば、今度のアシュラムの50周年記念礼拝は、関学の学院長、モトオちゃんが説教するのよ」と続けました。「そうそうモトオちゃんよ」とI橋さん。そんなことを言い合っていると、先ほど何人かで入つてこられた中の大柄な紳士がニコニコしながら近づいて来るや否や「関学の中道と申します」と、自己紹介されたもんだから、私たち婆さんトリオは、驚くというレベルを通り越してかのオウム真理教教祖の秘儀、空中浮遊かと思う

く、お顔はチラシの写真で知つてゐるのみ、一方的に名前を存じ上げてゐるだけの事なのに、したり顔で言つてしまつた自分を恥じても、口から出た言葉は、戻しようがない。士は、それだけ言うと同行の方々と、部屋の向こうに行かれた。それを目で追ひながら、なんということをしてしまつたのだ、しまつた!と思つても後の祭りとはこのこと。しかし、何で、関学の学院長が、このタイミングで、ここに現れたのですか。わ、わ、わ、私たちア、ア、ア、ア、シユラムなんです。」

なんですか。恥ずかしいのか?。恥ずかしいやら、申し訳ないやらで、食しているランチの味なんて味わう余裕もなく早々に平らげ、バザールを出ることに繋げた。

(つづく)

◀礼拝後、台湾原住民族聖歌隊の皆様と。

常任運営委員





夕口ヨ族の演舞（筆者中央）

日本愛修會 50周年記念会の感想

高雅雲
まず初めに、教会の派遣と祝福に心から感謝いたします。私たち5名の女性が文蘭教会を代表し、日本愛修會（アシユラムセントラル）50年の恵みの継続の中に立つことができました。これは単な

今年の大会は、ゴーギヤンの名画『私たちはどこから来たのか？私たちは何者か？私たちはどこへ行くのか？』を導入として用い、私たちを人生の最も深いところ、最も正直な叫びに立ち返らせてもらいました。それは単なる絵ではなく、靈的な鏡のようで、光の中で私達の心の渴望、葛藤、そして眞実を映し出し、再び生命を神の手に委ねるよう導いてくれました。

て多くの先人たちが耕してきただ靈的な土地の上に立っているのだと改めて知りました。翌日の早朝礼拝では、横山勲牧師が82年間の人生の証しを語つてくださいました。シンプルながら深い言葉で、「私は生涯、主の無限の恵みと憐れみにあづかってきた」と話されました。それは單なるストーリーではなく、年月によつて支えられ、生命によつて証明された証しでした。

る国際集会への参加の旅ではなく、神に直接導かれ、更新され、形作られる靈的な歩みでした。私は深く感じました。神はその民を作った。神はその民を作り、この道のりの中で、優しく私自身も形作つてくださっていることを。

愛修会の恵み…私たち
はどこから来たのか？

彼はパウロの祈りに出
てくる「刺」について

自分であるかどうかた
のだと。

も触れ、こう語りまた。「神は必ずしも私たちの痛みを取り除くわけではない。しかし、より深い自己を私たちに与えてくださる。」その瞬間、私は理解しました。祈りの真の成果とは、望む通りの事柄が成就することではなく、神の御心の中で変えられ、服従することをいとわない

主の言葉「私の力は人の弱さの上で完全に現れる」を引用されたとき、私の心にははつきりと分かりました——私の弱さは失敗ではなく、神の恵みが注がれる入団であり、私の不完全さこそが神の完全を示す器なのだと。(つづく)

滋賀大津 | 第 20 屆國際公義和平

首先，我衷心感謝教會的差派與祝福。讓我們五位婦女得以代表文蘭教會，站在日本愛修會五十年恩典的延續中。這不只是一趟參與國際聚集的旅程，更是一段被神親自引領、被更新、被塑造的屬靈行走。我深深感受到，神不只在塑造祂的百姓，也在這段路程中，溫柔地塑造我。今年大會以高める景観「我們從哪裡來？我們是誰？我們往哪裡去？」作為引言，帶領我們回到生命最深處，最誠實的呼求：那不只是一幅畫，更像一面屬靈的鏡子，在光中照見我內心的渴慕。願上帝與真理，一同引導我再次跨上生命的回向神的手巾。

最致命的問題，我們的課題永遠

板本惠主任牧師在開幕禮拜中分享：「五十年來，神的信實不曾離開。」這句話輕聲卻有力量，像一道光，照亮我們今日所站立的位置。原來，我們不是偶然來到這裡，而是站在許多前人以眼淚、順服、改變與恒心所耕耘的堅硬土地上。

兩早的禱禱禮拜中，橫山勸牧師分享他 82 年的人生見證。他簡單卻深刻地說：「我一生蒙受主無盡的恩典和饋贈。」這不是一句口號，而是以歲月承托，以生命驗證的見證。他談到保羅書告中的「刺」，提醒我們：「神不一定挪走我們的痛，但祂要把更深的自己賜給我們。」那一刻，我忽然明白，禱告真正的成就，不是事情是否照我所求，而是我是否願意在神的旨意中被改變。

當他引用主的話：「我的能力在人的軟弱上顯得完全。」我心裡清楚知道——我的軟弱，不是失敗，而是神施恩的入口；我的不完全，正是祂彰顯完全的器皿。

台灣基督長老教會文關教會
高彌李姐妹

(台灣基督長老教會
文蘭教會)

修道場アシュラム(2025年10月)に

参加して



初めての方、懐かしい方、各地より
シメオンの風に招かれて。

山崎 太郎
大阪はバビロンです。JR大阪駅から西は高層ビルばかりです。創世記の時代から、自己を中心とする人間は、建物の高さで己の権勢を誇ってきました。

大阪はソドムです。JR大阪駅から東は飲食店の集積地域なのです。

ぶりの大坂に、仕事とは言え毎日のように通っていると、心と靈が窒息していきます。だから、騒々しい都市生活を離れ、心静かに神と向き合う時間が、1年に1回ぐらいいは必要なのです。湖畔の近江八幡はカペナウムです。

アシュラムが開かれた10月9～10日は、ひよっとしたら2025年で最も気候の良い時期だったかもしれません。あ

ころ、そういう歴史のある所でした。

そんな資本主義どつぶりの大坂に、仕事とは言え毎日のように通っていると、心と靈が窒息していきます。だから、騒々しい都市

と、何となくアヤシイと思うエリアがあります。出身者に聞いたところ、そういう歴史のある所でした。

ですが、界隈を歩くことや、祈りの課題を分かち合つた一時。うるわしい時間でした。心が解放され、靈に自由が戻るのが分かりました。

黙想の家の一室で、一人だけで聖書を読む夜の1時間。静かに静かに、時が流れていきました。

建築とは個人の思想だけでなく、信仰や靈性までをも形にしたものである。そう実感しました。「場」の力に、大きく助けられたア

そのあと、庭に置かれた椅子に、妻と座つて星空を見上げました。虫の鳴き声以外聞こえません。極上の時間でした。

シユラムでした。

アシュラムが開かれた10月9～10日は、ひよっとしたら2025年で最も気候の良い時期だったかもしれません。あ

「分かったかい?」100年の時を超える声が聞こえた気がしました。

JR近江八幡駅に戻ると、黄金色の時間は終わりました。

JR近江八幡駅に戻るアシュラムで、自分がいかに「都会時間で慌ただしく」聖書を読んでいたか気づいたの

くやつくり読み、祈ります。時間に追われている人間に、御言葉が受肉し、靈性が養われるとは思えないのです。

大阪を「バビロン」視するのもやめました。善し悪しで物を見ていると、どこかで裁く心が生まれ、自分の心を硬直させていることに気づいたのです。

豊かな靈的資産を残してくれてありがとうございます、ヴォーリズ。リトリートに専念させてくれてありがとう、榎本家と教会の皆さん。何よりありがとう、解放者イエス・キリスト。すべての栄光はキリストに!

(ご夫妻でご参加。周年記念コンサートに50

シメオンの風9 「魂のケアを受ける」 市橋 恵子

最近、書店に行くと「ケア」という言葉を使った本のタイトルをよく見かけます。「ケアとは何か」「ケアの倫理」「ケアの本質」「本音のケア」などなど。四半世紀前までは「ケア」という言葉は医療や福祉の現場で使われることがほとんどでした。時代は高齢社会となり、介護が社会化され、それと同時に今まで見えていなかった不自由さ、脆弱さ、困難さが少しづつ可視化されるにつれて「ケア」という言葉は一般社会の中で拡がりをみせ、様々な場面の中で使われ始めています。

ケアはケアをする。つまり、手当や気遣い、配慮などの行為をさしてつかわれます。その行為の向こうには、ケアをする相手がいます。ケアは、例えば介護ロボットのように食事を食べさせたらその行為はそこで終わりではなく、そのことによってケアする人とケアを受けるとの関係性が生まれます。哲学者ミルトン・メイヤロフは「ケアの本質」(1971)という著書の序文に「一人の人格をケアすることは、最も深い意味で、その人が成長すること、自己実現することを助けることである」と述べています。この概念は、ケアリングという言葉で表わされます。そうであれば、私たちに最初で最高のケアリングをしてくださっているのは神様だなとしみじみ思います。イエス様の愛をしってから、ずっと魂のケアを受けてきました。喧騒を離れて、静かなシメオンの廊下を歩くたびに、神様から魂のケアを受けているなという思いがわきおこります。



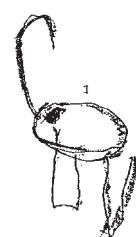
皆様お気に入りの小さな部屋。

いえじま 雜記32 「母屋の隣」

先日、母屋の隣にある昔父が塾をやっていた離れを整理していたら、ぼくが子どもの頃に読んでいたであろう児童書が何冊か入っている段ボール箱を見つけました。ズッコケ三人組からゲド戦記まで、よく読んだのを覚えている本から、こんな本読んだんだっかと思うような本もありました。そのなかにあった『ニューヨーク145番通り』という本は、読んだ記憶のまったくない本のひとつ。タイトルを見た瞬間、これはニューヨークのハーレムという黒人街の話だと思い、パラパラと読んでみるとやはり、ハーレムの黒人たちが登場するヤングアダルト向けの本でした。

今、ぼくはある児童書を翻訳しているのですが、それも黒人を主人公とした物語です。小さい頃に読んだ翻訳書は、どれも白人が主人公だったなと思い、一冊くらい黒人の物語があってもいいだろうとはじめた仕事でしたが、ところがどっこい、すでにそんな物語を読んでいたようです。その何十年後かに、ハーレム近くの神学校で黒人の先生から学ぶことになると、当時のぼくに言ってもきっと信じないでしょう。まったく人生というものは、なにが起こるかわかりません。 檻本 空 (ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)

ト今回からイラストは
しりとりに。空兄5才
画。1番目はゾウ(オ)
続きは?次号に。



昨年12月。センタークリスマス礼拝後、チャイムコンサート&カフェちいば特製カナッペ他おいしく豊かなひととき感謝!!



東京聖書教室後、クリスマス愛餐会。しみじみする会の方も共に

な経支り うえの定任は ず神祈日台で しの五ららす超と数会シなサ
い綸えに国と えに期本まには不思議で そた。流十励るに思励がか易な
もの は合つう。て てキスを年た、お思議で ました。私は立場は、日本
の がまことに くクリスチヤン福音宣教のジルの日系人教
ありま す。計 ます。終十月アレンジ主は生
す。りに 互が、 られる姿を支友が、やき
知神い、 惠れのに祈 ることを再開され
る年教 ます。かむよ教アに。
（知神い、 惠れのに祈 ることを再開され
る年教 ます。かむよ教アに。）

いの定任は うえの定任は ず神祈日台で しの五ららす超と数会シなサ
い綸えに国と えに期本まには不思議で そた。流十励るに思励がか易な
もの は合つう。て てキスを年た、お思議で ました。私は立場は、日本
の がまことに くクリスチヤン福音宣教のジルの日系人教
ありま す。計 ます。終十月アレンジ主は生
す。りに 互が、 られる姿を支友が、やき
知神い、 惠れのに祈 ることを再開され
る年教 ます。かむよ教アに。
（知神い、 惠れのに祈 ることを再開され
る年教 ます。かむよ教アに。）

あとがき

